

平成 27 年度トレーニングセミナー

1. テーマ

センター調査の実施に向けて

第 1 部 医療事故調査・支援センターの現状

第 2 部 センター調査の実施に向けて

第 3 部 グループワーク：センター調査の進め方

2. ねらい

○医療事故調査・支援センターの現状の情報共有

○センター調査の概要及び課題の共有

3. 実施日時・場所・対象

日 時：平成 28 年 2 月 20 日（土）13 時～17 時

場 所：TKP 品川カンファレンスセンター バンケットホール 5F

対 象：機構関係者、統括調査支援医、調査支援医

4. 内容（下記のタイムスケジュールを参照）

- 13：00 開会挨拶 理事長 高久 史磨
- 13：05 第 1 部 「医療事故調査・支援センターの現状」
- 1 機構、センターの現況について
日本医療安全調査機構 専務理事 田中 慶司
 - 2 センター調査の具体的業務について
日本医療安全調査機構 常務理事 木村 壯介
- 13：45 第 2 部 「センター調査の実施に向けて」
- 座長：山口 徹（日本医療安全調査機構顧問兼医療事故調査・支援事業部 部長）
- 1 医療事故調査結果の点検ポイント
長尾 能雅 氏（名古屋大学医学部附属病院 副院長）
 - 2 センター調査報告書の作成の手引き
宮田 哲郎 氏（国際医療福祉大学 教授）
 - 3 法律家の視点から
鈴木 利廣 氏（すずかけ法律事務所）
- 15：15 10 分間休憩
- 15：25 第 3 部 「グループワーク：センター調査の進め方」
- 座長：山口 徹（日本医療安全調査機構顧問兼医療事故調査・支援事業部 部長）
- 17：00 閉会挨拶 専務理事 田中 慶司

5. 実施結果

1) 出席者：67 名（講師 3 名含む）

（内訳）統括調査支援医（7 名）、調査支援医（17 名）機構関係者（33 名）その他（6 名）

2) アンケート結果

(1) アンケート回収状況

出席者 60 名にアンケートを実施し、37 名より回答を得た（回収率 61.6%）。

(2) アンケート回収結果

①回答者属性

医師 14 名、看護師 15 名、事務職 4 名、その他 4 名

②第 1 部「医療事故調査・支援センターの現状」について

医療事故調査制度やセンター業務に関する疑問点など（自由記載）

- ・センター調査において、支援団体がどのように関わるのかが分からない。
- ・センター調査における地域ブロックの関わりが良く分からない。

③第 2 部「センター調査の実施に向けて」の感想等（自由記載）

- ・センター調査について何となくイメージができた。
- ・求められる報告書とは何かが良く分かった。
- ・報告書を確認する際のポイントが理解できた。
- ・制度について改めて知った事項もあり、大変勉強になった。

④第 3 部グループワーク「センター調査の進め方」の感想等（自由記載）

- ・参加者と問題を共有できた。
- ・具体的に考えることができて良かった。
- ・活発な討論で理解が深まった。
- ・問題点・論点を抽出するには経験が重要であると感じた。
- ・同じ資料でも、グループによって異なる意見が出て興味深かった。
- ・もっと時間をかけて検討したかった。（時間が短かった。）

⑤センター調査のイメージがついたか。（選択式）

- ・とてもイメージできるようになった。（3 名）
- ・何となくイメージできるようになった。（21 名）
- ・あまりイメージできなかった。（0 名）
- ・全くイメージできなかった。（0 名）

⑥セミナー全体の感想や希望するセミナーテーマ等（自由記載）

- ・今後、センター調査の件数が増えることを考えると、調査に関わる委員数を増やす必要があるため、このようなセミナーを頻回に行ったほうが良い。
- ・地域の違いが良く分かった。
- ・今後もセンター調査の現状を共有したい。